

法の世界とジェンダー

司法と立法を変ええることはできるのか?

国際的なジェンダー主流化は、法の世界にも改革をもたらそうとしている。日本の司法や立法は、この要請にどこまで応えられるのか。ジェンダー平等を託す裁判の動向は、司法におけるジェンダーバイアスに歯止めをかけられるのか。ジェンダー関連の法改正、法学専門教育にジェンダー視点を導入する試みは、どこまで実を結びつつあるのか。司法改革から10年。この間の変化を分析しながら、法の世界をめぐる現状をジェンダー視点から検証する。



*****プログラム(13:00~17:00)*****

■開会挨拶・趣旨説明 浅倉むつ子(早稲田大学教授・学術会議会員)

■報告 13:05~14:55

- 1 法の世界におけるジェンダー主流化 後藤弘子(千葉大学教授・学術会議会員)
- 2 「女性に対する暴力」と法の世界 戒能民江(お茶の水女子大学名誉教授・学術会議会員)
- 3 婚外子差別をめぐる裁判 榊原富士子(弁護士・早稲田大学教授)
- 4 法科大学院におけるジェンダー法講義の経験から 角田由紀子(弁護士・学術会議特任連携会員)
- 5 ジェンダー法学教育の現状と可能性 二宮周平(立命館大学教授・学術会議連携会員)
三成美保(奈良女子大学教授・学術会議連携会員)

■コメント 15:10~15:50

上野千鶴子(立命館大学教授・学術会議会員) / 井上達夫(東京大学教授・学術会議会員)

■討論 15:50~17:00

■閉会挨拶 井野瀬久美恵(甲南大学教授・学術会議会員)

■司会

辻村みよ子(明治大学教授・学術会議会員) / 古橋エツ子(花園大学名誉教授・学術会議連携会員)

■シンポジウム総括責任者

武田万里子(津田塾大学教授・学術会議連携会員) / 紙谷雅子(学習院大学教授・学術会議連携会員)

主催: 日本学術会議・法学委員会ジェンダー法分科会

共催: 日本学術会議・社会学委員会複合領域ジェンダー分科会、社会学委員会ジェンダー研究分科会、史学委員会歴史学とジェンダーに関する分科会

後援: ジェンダー法学会、日本社会保障法学会、日本法政学会、民主主義科学者協会法律部会、ジェンダー史学会、日本人権教育研究学会、日本家族(社会と法)学会、明治大学法科大学院ジェンダー法センター、奈良女子大学アジア・ジェンダー文化学研究中心

場所: 日本学術会議(港区六本木7丁目22-34 東京メトロ千代田線 乃木坂駅出口5・徒歩1分)

連絡先メール: 武田万里子 takeda@tsuda.ac.jp 紙谷雅子 masako.kamiya@gakushuin.ac.jp

